

企業で保険を使う場合には死亡保障だけではなく、節税対策など、経営戦略的に活用するケースが多くみられます。それでは、企業で一般的な戦略的な保険活用方法は、どのようなものなのでしょうか？

【通増定期保険】節税や財務基盤の強化を目的として活用される保険として「通増定期保険」が最適といわれています。通増定期保険とは役員に付保する定期保険の一種で、役員に万が一のことが起きた場合に、多額の保険金が会社に入ります。契約形態によって保険料を全額損金算入できる保険商品です。

保険料が全額損金算入できるのでまるで掛け捨ての保険と同じなのですが、実は数年契約し続けた後に解約をすると、払い込んだ保険料累計の90%以上の解約返戻金が戻ってくるものなのです。保険料は損金算入できるのですが、実質的には貯蓄性の高いものなのです。これが大きな特徴となっています。

【活用方法】例えば、3月が決算の会社が3月の期末を迎えたときに思った以上に業績が良く、会社に利益が出そうな場合を想定しましょう。その場合、経営者はいま税金をただ納めるのではなく、将来の方が一の場合に備えて含み資産を蓄えたいと考えます。そのような場合に通増定期保険が使われます。

3月下旬に通増定期保険に加入したとしても、その1年間の保険料の全額を損金に計上することが可能です。保険料を支払うことで経費が増えるため、利

益が下がり、結果的に法人税を減らすことができます。

さらに、先々に解約すると払い込んだ保険料のほとんどが戻ってくるので、この保険導入により、含み資産を持つ安定した企業となることができます。

【最適な通増定期保険の選び方】日本には生命保険会社は約40社あり、その多くが通増定期保険を扱っています。また一保険会社で通増定期保険のパターンは約10種類近くあり、保険を扱うユーザーにとって、どれを使っているのか判断するのは難しい現状です。

自社のニーズを正しく理解し、それに最適な提案を組み合わせて提案してくれるような、信頼できる保険代理店に見積もりを依頼することが必要になるでしょう。とくに、一保険会社だけではなく、多くの保険会社を同時に取り扱えるような保険代理店の活用が、相談窓口が一本化できて楽なお勧めです。

(インフォランス代表取締役
佐々木雅士)

最適な企業の保険活用法



《ささき・まさし》大学卒業後、都市銀行の保険代理店部門の会社に入社し、企業向けの保険コンサルティング業務に従事。その後、

企業への幅広い経営側面支援を目指し、起業して現在に至る。保険事業だけではなく、税理士紹介事業やW E B紹介事業など幅広くコンサルティング業務を手がける。「通増定期保険一括見積もりサイト」や「せんもんか紹介ネット」などもインターネット上で運営中。